

聖書を旅する 8

第1章 中東入門 17

歴史 68 20
 年表 68 20
 英国と中東の不思議な関係 作家 林信吾 70
 日本人の間違った中東観 防衛大学教授 立山良司 78

第2章 ミステリアス中東への旅 85

中東ファンに聞いた人気スポットベスト10
 4か国どう動く? ビザの問題 88 86
 イスラエルの旅ガイド 92
 ヘブロン町のバザール 108
 ヨルダンの旅ガイド 110
 ヨルダン・アンマンのボルノ事情 120
 シリアの旅ガイド 122
 シリア・ダマスカスのスーク 132
 レバノンの旅ガイド 134
 レバノン・ベイルート食べ歩き 146
 パレスチナ難民キャンプは今 148
 中東旅行中の危機管理 151
 イスラム原理主義とは? 158

第6章 中東エンターテインメント

中東ビデオを見る 220
 中東の映画 映画評論家 佐藤忠男 227
 中東の新星歌手 タナ・インターナショナル 231
 中東を聴く 232
 中東音楽の魅力 ゼアミ代表 近藤博隆 238
 中東を読む 243
 中東関連ホームページを開く 249
 中東アートを買う 254

写真/イスラエルの花々



第3章 世界と日本の中東ゾーン 159

ロンドン、ハリのアラブ人街 160
 アメリカの中のアラブ人街 166
 日本の中東スポット 166
 イスラミック・センタージャパン 168
 ユダヤ・コミュニティ・センター 169
 (財)中近東文化センター 174
 イスラエル・レストラン「シヤマイム」 175
 日本にある中東を感じるスポット一覧 178

第7章 知らなかったこと徹底研究 257

ユダヤ人アン——ノンフィクション作家 渡辺幸一 258
 イスラエル人とユダヤ人の違い 262
 イエスからアンネの日記まで 262
 受難の民・ユダヤ人——林信吾 268
 ホロコースト教育資料センターって何? 276
 イスラエルに暮らす 279
 戦争にも行つた日本人に迫る——山崎あき 279
 日本に暮らすユダヤの男性と恋に落ちたけれど 286

第4章 ナゾに満ちた中東ゾーン 181

パレスチナと日本赤軍の関係 182
 少数派サマリアの人々 184
 キブツって、何? 186
 割礼のナゾ 188
 ユダヤの食コシエルのなぞ 190
 イエス・キリストはなぜ中東に生まれたか 192
 星野正興 192

第8章 秘境イスラエル 289

テマサトラベル社長 小佐々隆 306
 『来て見てシリア』清水敏子 310
 あとがき 316
 ここで情報を 外務省 319

第9章 中東にはまった日本人 305

第5章 中東の恋と結婚 202

私の国際結婚 森清美 203
 中東の愛と恋のタブー 209
 日本女性にとって中東の男の魅力は 213
 屋山久美子 213



多民族の顔

エルサレム・シンドロームという病がある。エルサレムを訪れる巡礼者、観光客が、突然、発症する精神的な病だという。この地を巡り歩いているうちに、自分を“モーゼ”や“キリスト”あるいは“マリア”といった聖書のなかの登場人物だと思いついてしまうのだ。この病気を発症したとたん、当人は、人の意見がまったく耳に入らなくなり、聖なる人々としての振る舞いを始めてしまうのだ。エルサレムの病院には、現在でも、毎年、数人がこの病気で担ぎこまれる。

ユダヤ、キリスト、イスラムといった三つの宗教の聖地であるエルサレムは、人を引き付ける特別な磁力を発しているような気がする。いや、気がするのではない。磁力があるというのは、間違いのない事実なのだ。それはロンドンやパリ、ローマ、ニューヨークといった現在の大都市が発しているものとは決定的に違う。どこかミステリアスで、神秘的なその力は、エルサレムに特別なものだ。エルサレム・シンド

ロームを発症してしまう人は、きっと、その磁力に強く反応してしまったのだらう。

過去に、この地を支配した人々は数多い。エジプト、ヒッタイト、アッシリア、ローマ……。アジアの西、ヨーロッパの入り口、またアフリカ大陸との中継地点といった位置ゆえのことなのだろうが、それにしてこの地の持つ磁力は、古代からあったことになる。おそらく過去の人々のなかにもエルサレム・シンドロームを発症した人がいるのではないか。事実、ヨーロッパから十字軍として遠征した人々の中には、故郷に帰ってきて、帰ってきた気がしなくなってしまった人もいたそうだ。彼の地に魂を置いてきてしまったのだ。

西暦2000年と一言でいうが、誰もが知っているとおり、2000年の数え始めの出来事が起きたのは、この地のことである。西暦という、世界のどこに行っても同じ時間軸で動いている現在、その教え始めが行なわれた土地が特別な磁力を持っていると書いたところで、何も突飛なことではない、むしろ、当たり前のことだらう。



他民族の顔

